

第96回 日本児童文学学会 中部例会(9月例会)

ご案内

第96回 日本児童文学学会中部例会を下記の通り開催いたします。お忙しいことと存じますが、ぜひご参加いただきますようご案内を申し上げます。

参加方法

- 本例会はZoomを使用いたします。
※Zoomのアカウントをお持ちでない方は、お手数ですがご自身で上記のリンクの「サインアップは無料です」よりご登録ください。
※当日、参加者の方に複雑な操作をしていただくことはありませんが、操作やトラブル等に関するご質問に関して対応はできかねます。
誠に恐れ入りますが、Zoomや通信機器の基本的な操作をご自身でなさることを前提にご参加をお願いいたします。
- 新型コロナウイルス感染防止対策のため、参加をご希望の方はこちらの [Google Forms \(https://forms.gle/5ydD2cTY1qMsXH1p6\)](https://forms.gle/5ydD2cTY1qMsXH1p6) か右のQRコードから事前登録をお願いいたします。登録締切は8月29日(日) - 9月1日(水)です。
- ご登録いただいた方へ
※8月30日以降、ご登録いただいたメールアドレスへZoom会議のURLとパスワードを記載した案内メールをお送りいたします。
ご送付に数日を要する可能性がありますので、ご了承ください。
※万が一、前日になってもメールが届かない場合は、お手数をおかけいたしますが、村田(中川)あゆみ (ayuminmurata0814@gmail.com) までご連絡ください。



開催概要

日時：2021年9月4日(土) 14:00~16:30 終了予定

場所：オンラインのビデオ会議 (Zoomを使用して開催)

※ご自宅などから、ご自身の通信機器を使用してご参加ください。

※インターネット環境の都合上、ご自宅などからZoomを使用できない場合は、事前にお申し込みをいただき、サテライト会場にお集まりください。

サテライト会場から参加希望の方は、8月29日(日)までに下記のいずれかの連絡先へご連絡ください(郵送で例会案内をお受け取りの方は同封の葉書にてご連絡ください)。

【事前申し込み先】

名古屋女子大学文学部 村田(中川)あゆみ

メールアドレス ayuminmurata0814@gmail.com TEL 052-838-5494 (研究室直通)

名古屋女子大学短期大学部 入口愛

メールアドレス airiguch@gmail.com TEL 052-852-9431 (研究室直通)

サテライト会場：名古屋女子大学(名古屋市瑞穂区汐路町3-40)

地下鉄桜通線「瑞穂区役所」下車 1番出口 東へ300m

タイムテーブル

- 13 : 45～ Zoom入室
14 : 00～14 : 05 開会あいさつ
14 : 05～14 : 45 研究発表 入口 愛 (名古屋女子大学短期大学部 講師)
(発表30分、質疑応答10分)
14 : 55～16 : 25 講演 丸尾 美保 (梅花女子大学大学院 非常勤講師)
16 : 25～16 : 30 閉会のあいさつ、諸連絡

研究発表

三つの「鼻」をめぐるー芥川龍之介・宇野浩二・広津和郎ー

入口 愛 (名古屋女子大学短期大学部 講師)

広津和郎に「鼻」(『女性改造』1924)という童話がある。この作品は芥川龍之介の「鼻」(『新思潮』1916)を意識して書かれている。時期を前後して、宇野浩二にも「龍介の天上」(『解放』1919)という作品があり、〈鼻〉をモチーフにしている。さらに、広津の「鼻」の前年に、相馬泰三はゴゴリの「鼻」の翻案作品である「鼻のゆくへ」(『婦人公論』1923.6)と「鼻のなくなった話」(『童話』1923.6-7)を発表している。ここから同じ世代で親交のあった芥川・宇野・広津・泰三らが1916(大正5)年から1924(大正13)年の8年間に、それぞれが〈鼻〉をモチーフとした作品を発表していることがわかる。

この〈鼻〉をモチーフとした作品群は芥川「鼻」からはじまり、宇野「龍介の天上」、広津「鼻」の流れとゴゴリ「鼻」から泰三「鼻のゆくへ」、「鼻のなくなった話」、広津「鼻」の流れが考えられる。本発表では、広津「鼻」と芥川「鼻」、さらに宇野「龍介の天上」を比較し、芥川・宇野の両作品を広津はどのように受容し、再創造したのかを考察する。また、〈鼻〉というモチーフをどのように捉え、作品のなかで用いたのか、〈鼻〉の同時代的解釈につなぎたい。

講演

ロシア昔話「ゆきむすめ」の変遷と日本での受容

丸尾 美保 (梅花女子大学大学院 非常勤講師)

ロシア昔話「ゆきむすめ(スネグーロチカ)」は、子どものいない老夫婦によって雪から作られた女の子が夏に空に帰っていった話である。「ゆきむすめ」の物語は、最初に1840年にマクシーモヴィチがキエフの雑誌に発表した。それをアフナーシェフが自著に引用したことから、オストロフスキー作の戯曲『雪娘：春のおとぎ話』の源泉となり、リムスキー・コルサコフがオペラにしたことによって、天界の美しい娘のイメージが新たに生まれた。また、1930年代にはジェット・マローズ(霜じいさん)の孫娘スネグーロチカとしてロシアの新年のキャラクターにもなり、プレゼントを子どもに配る役割も果たすようになった。

昔話「ゆきむすめ」の物語は、ロシアで20世紀初頭から絵本になっている。ソビエト時代には、社会主義リアリズムの影響で当初は出版が少なかったが、第二次世界大戦の後には多くの絵本が出版されており、今日ではポップアップ絵本も含めて毎年多数の絵本が新たに生まれている。「ゆきむすめ」の絵本からロシアの絵本史を語ることも可能である。

日本に「ゆきむすめ」が紹介されたのは、『少年世界』10巻3号(1904年2月)に掲載された栗原薫花「雪娘」が最初であった。大正期には絵雑誌に着物を着た幼児のゆきむすめが描かれ、『赤い鳥』などの雑誌にも再話されている。日本での受容についても考察したい。

会場案内

- オンラインのビデオ会議（Zoomを使用して開催）
 - ※Zoom会議の詳細は、事前登録いただいたメールアドレスへ後日お送りいたします。
 - ※Zoom会議に参加の際、ご自身のアカウント名を「学会に登録されているお名前」に変更してください。
- サテライト会場
 - ※インターネット環境の都合上、ご自宅・ご自身の通信機器でのご参加が難しい場合は、名古屋女子大学を利用できます。
 - ※地下鉄桜通線「瑞穂区役所」下車 1番出口 東へ300m（交通アクセスは[こちら](#)）
 - ※サテライト会場から参加希望の方は、8月29日（日）までに下記のいずれかの連絡先へご連絡ください。

名古屋女子大学文学部 村田（中川） あゆみ
メールアドレス ayuminmurata0814@gmail.com TEL 052-838-5494（研究室直通）
名古屋女子大学短期大学部 入口 愛
メールアドレス airiguch@gmail.com TEL 052-852-9431（研究室直通）

なお、郵送で例会案内をお受け取りいただいた方のなかで、サテライト会場をご利用希望の方は同封の葉書にてご連絡をお願いいたします。

事前にご連絡をいただいた方に、当日お越しいただく教室等をお伝えいたします。

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、ご自身のヘッドホンやイヤホン（可能であればマイク付きのもの）をお持ちください。

※万が一体調がすぐれない場合は、サテライト会場のご利用をお控えくださるようお願いいたします。

日本児童文学学会中部支部事務局からのおお願い

会計より

2021年度の支部会費 2,000 円が未納の方は、納入をお願いいたします。今後も新型コロナウイルス感染症が蔓延する間はオンライン開催の予定です。お手数をおかけしますが、お早めに下記郵便局振込口座に、備え付けの用紙を使って振り込みをお願いいたします。休日でもATMが稼働しているときは振り込みができます。

口座番号：00550-4-52140

口座名称：日本児童文学学会中部支部

（他行からの振込みの場合は、〇五九（ゼロゴキユウ）店 当座 0052140 です。）

『児童文学論叢』編集委員会より 原稿募集のお知らせ

『児童文学論叢』第22号を2022年秋に発行する予定です。2022年3月末締切で原稿を募集します。投稿をご希望の方は**本年12月26日(日)までに**事務局(青木文美 /Eメール aofumi@asu.aasa.ac.jp)または編集委員(酒井晶代 /Eメール masaka@asu.aasa.ac.jp)までお申し出ください。よろしくお願ひいたします。

日本児童文学学会中部支部
〒480-1197 愛知県長久手市片平二丁目9
愛知淑徳大学福祉貢献学部
青木文美研究室気付
電話：0561-62-4111（内線2458）